Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター
September 2025 No.87



特集

子どもの育つ権利を支える

～ 子どもの食の視点から ～

©Mustafa Saeed / Save the Children

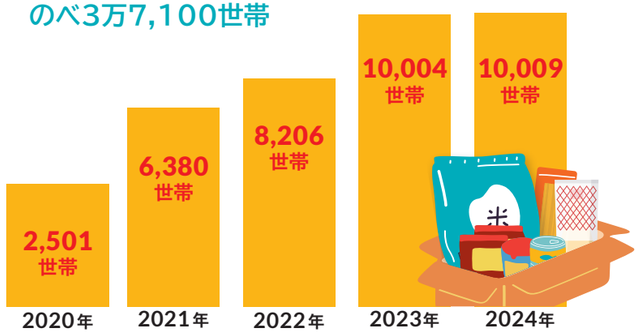
【特集】子どもの育つ権利を支える

食の支援

「子どもの食 応援ボックス」

米をはじめとする物価の高騰が続くなか、経済的に厳しい状況にある子育て世帯からは、「子どもに十分な食事を与えられない」「これからの生活が不安だ」といった声が多く寄せられています。「子どもの食 応援ボックス」は、食料品の提供を通じて子どもの食を支えるとともに、子育て世帯の声に耳を傾けています。

▶ これまでの支援世帯数は のべ3万7,100世帯



2020年は「ひとり親家庭応援ボックス」として1都3県、2021年は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令された都道府県に申込時に居住が申込条件

▶ 受け取った人からのメッセージ

“
夏休み中の食費等心配していましたが、応援ボックスのおかげで安心した気持ちで今過ごしています。本当にありがとうございました。

（2025年夏　熊本県　ひとり親　小学生の保護者）
”



▶ 実施の背景とこれまでの支援

「子どもの食 応援ボックス」は、新型コロナウイルス感染症が拡大した2020年に、家計がひっ迫した首都圏のひとり親家庭に対する緊急支援としてスタートしました。

2022年からは、食の支援を求める子育て世帯の切実な声を受けて全国に拡大し、ひとり親だけでなくふたり親家庭も対象に、給食のない学校の夏と冬の長期休暇期間に食料品を届ける支援に発展しました。物価高騰と申し込みの増加、切迫した保護者の声も増える中で、現在では年間にのべ約1万の子育て世帯の食を支えています。



© 利用者からの提供

アンケートで集まった 声

2025年夏 申込者の声

2025年夏 アンケート調査 結果を ご覧ください

ニュースで値上げ値上げで気にしてしまって全然食べなくなってしまいました。お米、高いんでしょといわれて高いね…あんまり食べないようにするからと。

神奈川県　ひとり親 中学生の保護者

今、高校二年生ですが、昨年より体重が減っています。高校になると給食もなく弁当を持っていきます。栄養も十分にとれてないように思います。

三重県　ひとり親 高校生の保護者

子供達にお金がないから食べられない思いは絶対にさせたくないので、他を削って十分に食べさせるようにはしてます。でもその代わりに洋服が買えなかったり、悲しい思いをさせてます。

東京都　ひとり親　中学生の保護者

お米(主食)を優先し、おかずを減らしている現状です。ふりかけなど簡素な物で栄養が十分満たされる訳が無いので不安です。

宮城県　ふたり親　小中高校生の保護者

※自由記述は、原文のまま。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、個人情報保護の観点などから原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合がある。

▶ 厳しさを増す子どもの食生活

2025年も6月に募集を開始し、約7,900世帯から申し込みがありました。申し込み時のアンケートでは、これまで以上に家計が厳しい状況が明らかになりました。子どもの食事の量も質も落ち、栄養面に不安がある、体調を崩しやすくなったなど食生活の根幹が揺らいでいる様子がうかがえました。また、食費を優先するために子どもの進学や友人との交流を諦めさせざるを得ない、「これからどうなるのか不安」といった声から、止まらぬ物価高が保護者の精神的ストレスとなっている実態も浮き彫りになっています。こうした中、「子どもの食 応援ボックス」は、子どもや保護者にとって心強い存在となっています。

スタッフの声

経済的に困難な状況にある子育て世帯において、米不足や米を含む食品の価格高騰が子どもの食事に大きな影響を与えています。2025年6月に実施したアンケートでは2024年6月と比べて、7割を超える世帯において主食である米の摂取量も減っていると回答しており、長期的に子どもの発達・成長に深刻な影響を与えることが危惧されます。国連の子どもの権利条約では、国が子どもの生存および発達を可能な限り最大限に確保することを求めています。今後も子どもの成長、子どもの食の状況改善のために食の支援を実施していきます。

国内事業部 子どもの貧困問題解決事業 プログラムオフィサー
磯田 崇子


©Patou Dombi / Save the Children

【特集】子どもの育つ権利を支える

食料危機への支援

世界の食料危機現状

2025年、世界はかつてないほどの食料危機にあります。

3億4,300万人
が深刻な食料不安に直面しており、

190万人 が飢きんの瀬戸際
にあると推定されています。これは未曽有の事態です。この危機の原因は一つではありません。紛争、気候変動、経済の混乱――それらが複雑に絡み合い、何百万人もの人々が飢餓の脅威と隣り合わせの日々を送っています。さらに食料不安の結果、

約7人に1人
の子どもが栄養不良に陥っています。

2024年8月、スーダン北部の難民キャンプで飢きん（IPCフェーズ5）が確認されました。「IPCフェーズ5」とは、国際的な食料不安の分類における最も深刻な段階です。「21世紀には二度と飢きんを起こさない」という国際社会の目標に反し、スーダン以外にも、南スーダン、パレスチナ・ガザ地区、ハイチ、マリをはじめ、70を超える国・地域で食料不安が発生しています。背景には、紛争や気候変動などの直接的な影響に加え、避難先でも食料不足に直面する人々の増加があります。

こうした中、栄養不足も深刻です。3,800万人の子ども、1,100万人の妊産婦が栄養不良の状態に陥っています。子どもたちは、命の危機に加え、心身の発達や学ぶ力、将来の健康までも脅かされています。

人々が飢えや栄養不良の心配をすることなく、子どもたちが成長するためには、命を守る緊急支援に加え、食と栄養を支える地道な取り組みが欠かせません。

参考資料：WFP. 2025. WFP 2025 Global Outlook. Rome.
FSIN and GNAFC. 2025. GRFC 2025. Rome.

セーブ・ザ・チルドレンが支援する子どもたちのストーリー

セーブ・ザ・チルドレンでは、「食」や「栄養」に力を入れた事業を展開しています。
栄養状態の向上を通じて、子どもたちの成長を世界中で支援しています。



マダガスカル

マダガスカル南東部の農村では、限られた収入や栄養に関する知識不足から、主食の米に依存する傾向があり、深刻な栄養の偏りがありました。セーブ・ザ・チルドレンの支援により、モリンガやクレソン、にんじんやズッキーニなどの野菜、豆類、小魚やエビなどのたんぱく質といった多様な食品を食事に取り入れるように。ほとんどの子どもが、必要な回数の食事をとり、栄養バランスのとれた食生活を送れるようになりました。






©AL-BARAA MANSOOR / Save the Children

イエメン

イエメンの南部に暮らすアフマドさん（1歳）は栄養不良で命が危険な状態でしたが、保健ボランティアの助言でセーブ・ザ・チルドレンの施設を受診。専門治療につながり回復しました。父親は「息子が治療を受けて元気になり、ほっとしています。イエメンの苦しみが終わるよう、紛争の終結を願っています」と話します。

ウガンダ

ウガンダでは農家の生計向上を通じた子どもの栄養改善に取り組んでいます。セーブ・ザ・チルドレンの支援で新たに養蜂を始めた農家は、「養蜂のおかげで家庭の収入が上がりました。採れた蜂蜜の一部は、子どもの咳の予防に使っています。」と話します。生計向上の支援により収入が増え、栄養豊かな食材を買えるようになり、子どもや家族の健康に繋がっています。

教育を攻撃から守る国際的な指針
「学校保護宣言」策定から10年

「学校保護宣言」とは

紛争地において、学校や大学を武力攻撃や軍事利用から守ることを目的とした国際的な指針──それが「学校保護宣言」です。2015年の策定後、すでに121ヶ国が賛同し、国内法整備などの取り組みを進めています。日本政府は未だ賛同しておらず、G7各国で賛同していない唯一の国となっています。

日本政府による宣言賛同を求め、署名キャンペーンを実施中

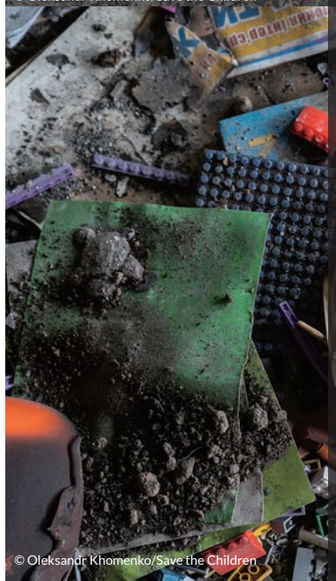
2024年、第二次世界大戦後で最多となる61の紛争が世界各地で起きました*。この中で、学校や大学が攻撃されたり、子どもや学生、教員が標的となったりする事案も多発しています。本来、国際人道法では市民や民間施設を攻撃することは禁じられていますが、学校が「軍事利用」されることで攻撃対象とみなされてしまうことが理由の1つです。

「学校保護宣言」への賛同は、こうした攻撃から学校や教育関係者を守ることの宣言であり、賛同各国はそのための具体的な行動を進めています。日本政府にも早期の賛同を働きかけるため、2025年4月より協力団体とともに、署名を呼びかけるキャンペーンを立ち上げました。

*The Peace Research Institute Oslo (PRIO)



ウクライナのハルキウで壊された学校の撤去作業を見つめる子どもたち
© Oleksandr Khomenko/Save the Children



© Oleksandr Khomenko/Save the Children

紛争地の子どもの声

“外出することも、学校に通うこともできず、家の中に閉じこもっていました。

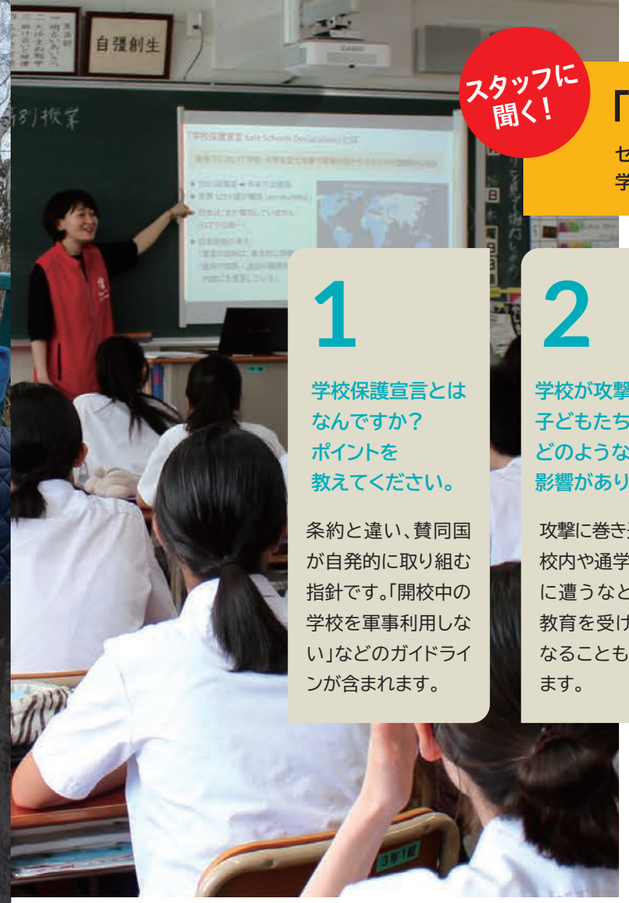
私は自分の国が平和で豊かであってほしいです。紛争を終わらせ、暴力を止めるために人びとが集まって話し合う必要があります。

サンダスさん（13歳）ソマリア”

“学校では警報が鳴っていました。みんな地下のシェルターに避難しました。

でも私たちは何とかして勉強を続け、たくさん勉強して国を復興させていかなければなりません。

ユリアさん（14歳）ウクライナ”



スタッフに聞く！

「学校保護宣言、どうして必要？」

セーブ・ザ・チルドレンのスタッフ松山晶さんが
学校保護宣言に関する4つの質問に答えてくれました。

1 学校保護宣言とはなんですか？ポイントを教えてください。

条約と違い、賛同国が自発的に取り組む指針です。「開校中の学校を軍事利用しない」などのガイドラインが含まれます。

2 学校が攻撃されると子どもたちにどのような影響がありますか？

攻撃に巻き込まれる、校内や通学路で暴力に遭うなどのほか、教育を受けられなくなることも起きています。

3 学校保護宣言に賛同すると、どのような良いことがありますか？

賛同国では、国内法制度の見直しや軍・省庁関係者への周知などにより、学校の軍事利用が減少しています。

4 日本が賛同する見込みはありますか？

宣言を支持している政策関係者もいます。多くの市民の声を届けることで、賛同の動きをつくれると考えています。

「紛争下であっても、一般市民や学校などの民間施設は守られなければなりません。国際人道法が定めるこのルールを実践するための指針として、各国政府・軍関係者、国際機関などの協議により『学校保護宣言』は策定されました。」

アドボカシー部 社会啓発オフィサー
松山 晶

子どもたちの命と教育への権利を守るために一緒に声をあげよう！

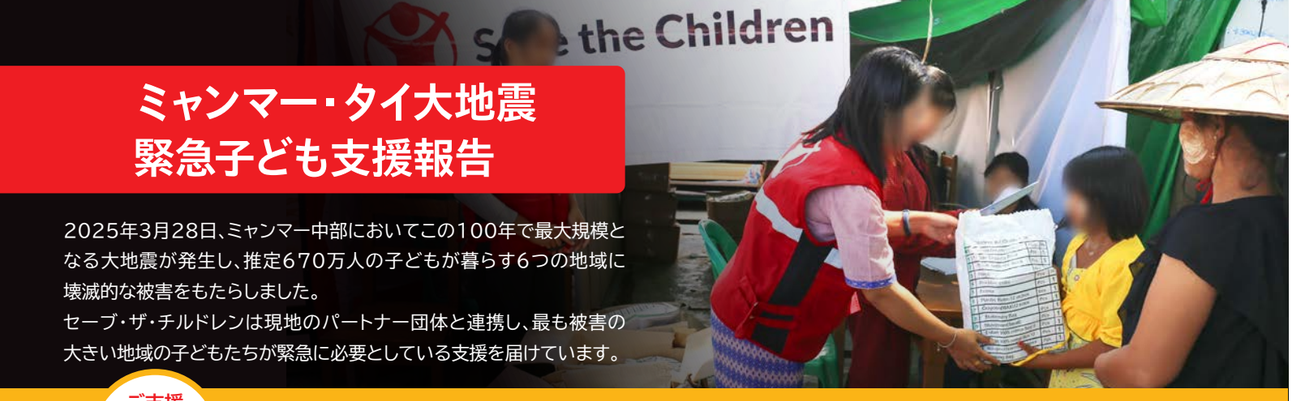


日本政府に「学校保護宣言」への賛同を求めるため、協力団体とともに署名活動を行っています。寄せられた署名は、関係省庁や国会議員へ届けます。右記の2つのページで署名を呼びかけています。ぜひご協力ください。

※18歳未満の方は、原則「あすのコンパス」から、保護者の承諾を得て署名にご協力ください。

あすのコンパス
署名ページ

Change.org
署名サイト



ミャンマー・タイ大地震 緊急子ども支援報告

2025年3月28日、ミャンマー中部においてこの100年で最大規模となる大地震が発生し、推定670万人の子どもが暮らす6つの地域に壊滅的な被害をもたらしました。
セーブ・ザ・チルドレンは現地のパートナー団体と連携し、最も被害の大きい地域の子どもたちが緊急に必要としている支援を届けています。

ご支援ありがとうございます

セーブ・ザ・チルドレンは、ミャンマー中部のザガイン、マンダレー、シャン州で、約3万4,000人の子どもを含む11万1,000人を超える人たちに、以下の支援を届けました。

主な支援活動と受益者数
（2025年6月30日現在）

- 米、油、豆類、塩、魚の缶詰などの食材・食事の提供：約2万9,000人
- 現金支援：2万7,000人以上
- 衛生キット*：＊石鹸、歯ブラシ、タオル、洗濯用洗剤など：8,600個以上
- 飲料水：7万9,000人以上
- 緊急家庭用キット*：＊毛布、寝具マット、蚊帳、ロープなど：1万8,500世帯以上
- 緊急医療支援：8,500人以上
- 学習用キット*：＊スケッチブック、ノート、文房具、クレヨンなど：約3,000セット
- 精神保健・心理社会的支援（こころのケア）：2万人以上

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに寄せられたご寄付はおよそ3,500万円（2025年6月30日現在）です。

セーブ・ザ・チルドレンは、コミュニティやパートナー団体と協力して、今後も地震の影響を受けた子どもと家族の支援を続けます。ミャンマーとタイの子どもたちの今と未来を守るために、引き続き私たちのミャンマー・タイ大地震緊急子ども支援に関心をお寄せいただきますようお願いします。

最新の活動状況はセーブ・ザ・チルドレンのウェブサイトよりご覧いただけます。
詳しくはこちらをご覧ください。

「能登半島地震・豪雨」被災した子育て世帯の保護者約3,000人に聞きました



2024年1月1日に発生した能登半島地震および9月の奥能登豪雨で被災した子育て世帯に対し、災害による子どもの生活やこころ、また家計などへの影響に関するアンケート調査を実施しました。
今年4月には、「子どものこころのケア」「子どもの学び・育つ環境の整備（＝子どもの権利保障）」「公的な経済支援の拡充」といった提言をまとめた調査報告書を作成し、石川県教育委員会をはじめ能登地方の5市町（輪島市や珠洲市など）やこども家庭庁に届け、今後の対応を求めました。

アンケートのハイライト

能登半島地震・奥能登豪雨により、子どもの生活にマイナスの影響があったと回答した世帯は **86.6%**

家計状況について赤字の世帯が被災前と比較し、**約4倍に増加**（7.5%から32.2%）

具体的な影響として「子どものストレス（災害への怖さなども含）がたまっている」が **最多回答 68.4%**

給付認定世帯のうち **52.6%** が被災した子どもや子育て世帯への公的制度や支援が足りていないと回答

アンケート結果報告書はこちら

※自由記述は原文のまま。（ ）内は、発災時の居住地、子どもの学年層は申請時点

回答者の声

- 子供たちのメンタルが心配です。地震が今も頻繁に起こり、その度にびくびくしています。元日の恐怖がよみがえってきて、1人で家にいるのを怖がります。例えば、放課後色んな学年が集うことができる児童館のような施設があるといいなと思います。（七尾市、高校生世帯）
- 子どもたちが安心して勉強や様々な活動体験ができる機会を設けられるように支援を継続して欲しい。（穴水町、高校生世帯）
- 人口の減少、特に子供の減少による子供の現在の環境や将来への不安がある。（能登町、小学生世帯）
- 一部損壊や準半壊の人への支援金が少なすぎる。家の損壊の程度に限らず、水道や家電製品等、修繕にかかる費用が多いのは、これらの判定家屋の人も変わらない。子供が通う学校や通学路の整備が遅すぎる。土砂崩れしているそばで土嚢すら積んでいない場所で部活動をしている子供の安全はどう考えているのか等伝えていただきたいです。（輪島市、高校生世帯）

PARTNERSHIP INFORMATION

Interview

当社の事業領域だけでは解決できない社会課題に一緒に取り組んでいきたい



株式会社タカラトミー
サステナビリティ推進室　室長
谷村 美奈 様

「アソビ」は社会において重要な役割を果たしている

当社は昨年、創業100周年を迎えた節目を機に、パーパス「アソビへ懸ける品質は、世界を健やかに、賑やかにできる。」を掲げ、それに伴い、サステナビリティ・ビジョン2030「アソビへ懸ける品質は、持続可能なウェルビーイング向上にグローバルで貢献できる。」を新たに制定しました。
「アソビ」は単なる楽しみだけでなく、会話のきっかけや思いやり、学びや成長など、多様な価値を生み出します。子どもの権利条約でも子どもたちの遊ぶ権利が保障されていますが、タカラトミーグループも「アソビ」という体験を通して、社会性や倫理観、想像力や感性、ひととの絆まで届ける、社会において重要な役割を果たしていると考えています。また、次世代教育や地球環境に配慮したおもちゃを通じた啓発、目や耳の不自由な子どもたちとも一緒に楽しく遊ぶことができる共遊玩具の普及など、事業であるアソビを通した豊かな社会への貢献を行っています。

誰ひとり取り残さない共生社会の実現を

当社は、「アソビ」を通して、誰ひとり取り残さない共生社会の実現を目指しているので、セーブ・ザ・チルドレンの活動とも親和性が高いと思います。
セーブ・ザ・チルドレンの活動に共感し、先日ボランティアとして「子どもの食 応援ボックス」の箱詰め作業の活動にも参加しました。子ども支援の専門性やネットワークを持つセーブ・ザ・チルドレンと連携することで、当社の事業領域だけでは解決できないさまざまな社会課題に一緒に取り組んでいきたいと考えています。そして、「アソビ」の大切さを子どもたちだけでなく周囲の人たちにも理解してもらいたいと願っています。



Information



パレスチナ・ガザ地区に生きる子どもたちと家族に想いを寄せて

日本最古のモスクといわれる神戸ムスリムモスクからは、パレスチナ・ガザ地区の子どもたちへの緊急支援にご寄付いただいています。モスクに来訪するムスリム、および観光客からいただいたあたたかい募金は、2023年10月以降の激しい戦闘により壊滅的な状況にあるパレスチナ・ガザ地区の子どもたちのための緊急支援に活用されています。



美しい未来で「美しい時を刻むために」子どもたちの幸福を願って

銀座で高級時計販売を手掛ける創業130年以上の老舗・日新堂は、紛争や貧困の影響を受ける世界中の子どもたちへの支援活動を2008年より長年、支えてくださっています。年に2回、社内で募金強化月間も設けられ、「美しい時を刻むために」を理念に、企業と従業員の方々が一体となって取り組んでくださっています。



楽曲に込められた想いを世界の子どもたちに

ロックバンドのTUBEからは、国内外の子どもたちを広くご支援いただいています。これは、TUBEが1999年にリリースした楽曲「ひまわり」に想いをリンクさせた「ひまわりプロジェクト」によるもので、ワッペンステッカーなどのチャリティグッズの利益の全額をご寄付いただいています。



スタッフの一日

ウガンダ駐在員
内藤 優和



ウガンダの子どもたちが虐待やネグレクト、搾取や暴力などのあらゆるリスクから守られるように、地域の人たちや行政と連携して「子どもの保護」事業を行っています。

ウガンダってどんな所？

ウガンダは“アフリカの真珠”と呼ばれ、飛行機の窓からは緑あふれる自然が見渡せます。人口の半分以上を18歳未満の子どもが占め、世界で2番目に子どもの割合が高い国でもあります。
未来を担う子どもたちを守る支援が求められています。

1 7:00「オリアティア？」（元気？）「オリブルンジ！」（元気！）



首都カンパラに約80人のスタッフ、事業地アルアには私のチーム6人が勤務しています。出張の日は飛行機で約1時間半かけて事業地に向かいます。

2 8:30 午前の仕事



オフィスでチームと打ち合わせを済ませ、現場に向かいます。この日は、「体罰等によらない子育て」研修現場へ。研修講師や参加者の生の声を聞く時間を大切にしています。

3 13:00 ランチ



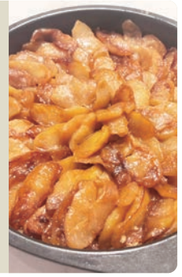
スタッフとローカルな食堂へ。蒸したバナナの「マトケ」や米、サツマイモ、ヤムイモ、キャッサバと少しの肉と豆のスープが定番スタイル、まさに炭水化物祭りです！湖で獲れる白身魚ティラピアの丸焼きも人気のごちそうです。

4 14:00 午後の仕事



子どもの保護の最前線で働くパラ・ソーシャルワーカー、社会福祉オフィサーとの定例会議に参加。子どもへの虐待などのケースの対応方法について話し合います。

5 17:30 退勤後&週末



平日はウガンダ人トレーナーと筋トレで追い込み、週末は簡単なお菓子作りでしっかり甘やかす―矛盾した二刀流スタイルでリフレッシュしています。

持ち物check!



マラリア対策の蚊除けスプレーに、スコール用の傘。通信手段は命綱、充電切れに備えてバッテリーは2台持ち。万が一を想定し、応急処置キットにヘッドライト、非常食も。現場での私の“サバイバル装備”です。

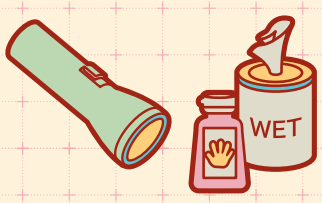


もしものときのために、子どもと一緒に備える防災を

地震や集中豪雨など、自然災害はいつ起こるかわかりません。災害が起こったときのために、子どもの視点に立った備えも大切です。
セーブ・ザ・チルドレンでは、子どもたちと一緒に防災について考えるときに役立つ情報や、知識を紹介しています。

子どもにやさしい防災

くわしくはこちら





2025年カレンダーについてのお詫びと訂正

冬募金のご案内とともに支援者の皆さまに配布した2025年度のカレンダーに一部誤りがありました。6月23日が誤って6月16日になっていました。お詫びして、訂正いたします。訂正後のカレンダーはこちらからダウンロードできます。

Save the Children

www.savechildren.or.jp
セーブザチルドレン 検索

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界約110ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。子どもの権利が実現された世界を目指し、100年以上にわたり活動しています。

＊この冊子の印刷におきましては、株式会社 技秀堂にご支援いただきました。

表紙写真：
セーブ・ザ・チルドレンの支援により栄養不良の治療を受ける子ども
（ソマリア2024年8月）

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C020246
www.fsc.org
この冊子はFSC®認証紙を使用しています。

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター No.87 2025年9月発行 発行元：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F ご支援に関するお問い合わせ：03-6859-0068